

## ■知的資産経営国際ワークショップの報告

日本ナレッジ・マネジメント学会 副理事長 高梨 智弘

### 【概要】

- ◇ 日時：2010年12月1日（水）13:00～17:30
- ◇ 場所：早稲田大学小野記念講堂
- ◇ 統一テーマ：知的資産経営国際ワークショップ：『知を活かすー創造とイノベーションのための場と組織』
- ◇ 主催：日本ナレッジ・マネジメント学会、New Club of Paris、早稲田大学知的資本研究会

当日は、知的資産経営関連の専門家を中心に世界から約53名が参加した。約半数が、ドイツ、フランス、オランダ、スウェーデン、中国、台湾、ブラジルなどからの参加であった。

### ◆開会の挨拶



13:00～ 主催者側代表として、森田松太郎日本ナレッジ・マネジメント学会理事長が開会宣言を行った。



13:05～ 荻原直紀富士ゼロックス・シニア・コンサルタントの司会進行でスタート。

### ◆講演の内容:(使用言語英語)

内外の7つの事例紹介と特別講演の要旨は次の通りであった。

### ○ケース1:「Future Center にみるイノベーションの現場」



オランダの Mr. Hank Kune 氏と富士ゼロックスの荻原直紀氏によって、「欧州にはすでに30カ所に Future Center があり、EU の支援も得て活動中である」旨発表があった。Facilitation を重視し、自由な雰囲気での活動は、その場所のデザインを含め、特に、英語の Place より広義で・多義的なナレッジマネジメントの「場」の概念が採用されており、実際に、税務署や税関などの公共の場のデザインにも応用している事例の紹介があった。富士ゼロックス KDI (Knowledge Dynamics Initiative)による知識創造による企業活性化、ワークスペース設計等の活動支援についても紹介があった。

### ○ケース2:「BMW における知的資産経営の試み」



ドイツの Inge Wolf、Clausthal 大学教授による3 dimensions(Quality, Quantity and Systematic)の成功要因について解説があった。

## ○ケース3:「イノベーションのための支援活動」

### ケース3の①



ブラジルの Brazil National Development Bank による Joao Paulo Carneiro H. Braga 氏から、財務の健全性について、Competences と無形資産（「見えない BS」=Knowledge Balance Sheet の考えを含む）の解説があり、Strategy, External Relation, Governance, Product Innovation, Human Resource, Final Policy の六角形の方法論が紹介された。

### ○ケース3の②:



日本の ITCA 小林寛三氏から、METI 推薦資格として成立した IT Coordinator r (ITC) 制度が紹介された。設立から 10 年経過し、全国 9,500 名の資格者を輩出し、全国約 200 の ITC による自主組織がある。420 万社の日本の中小企業をサポートする制度である。本年の 6 月 1 日に、知識体系から実践力体系に方法論を拡充し、気づきの経営や経営改善・改革に結びつける IT 経営の概念(知識・知恵・知心の総合概念を取り込んだ知の経営をベースとしている)の普及・支援活動を経済産業省の支援を受けて日本中で展開されていることが強調された。

#### ○ケース4:「老舗企業のイノベーション」 -見えざる資産を醸成する場の構築-



日本の鍋屋バイテック会社(NBK)丹羽哲也匠部次長より、1560年創業の鋳物から発展した半導体、医療などハイテク分野の部品メーカ（岐阜県、社員400名）の事例が紹介された。

#### ○ケース5:「地域における知的資本報告書の取り組み」



2006年に設立された The New Club of Paris の概要について、創設メンバーに一人であるドイツの Gunther-M. Szogs 氏によるスピーチ。EU域内の創造性ある起業家を育成支援 (Intellectual Entrepreneurs) し、各国で創造力開発のための講演・出版・ワークショップを開催している。

日本からの日本機械輸出組合 Brussels 住田孝之所長もその支援メンバーで、この日も一時帰国しての参加。JEITA 欧州も関与しているとのこと。

## ◆特別講演:「The New Club of Paris の試みと成果」



ビデオレター出演のスウェーデンの Leif Edvinsson Lund 大学教授、フランスの Armed Bounfour Paris-Sud 大学教授と元 METI 知財室長だった住田孝之日本機械輸出組合 Brussels 所長によるパネル形式での The New Club of Paris の活動紹介。住田氏のほか花堂靖仁早稲田大学教授も設立メンバー46 人の内の 2 人の日本人。

## ○ケース6:「NPO 組織における知的資産の活用」



フランスの Armed Bounfour Paris-Sud 大学教授による 2025 年に創造性を重視した画期的な Paris-Saclay 新キャンパス構築構想を含めた講演。

## ○ケース7: 日中における知的資本経営管理士(知識資本管理士)の取り組み



船橋仁 アクセル社（知的資本経営のコンサルタント会社、社員 40 名）社長より、日中における知的資産管理士の取り組みについての説明があった。

変革の時代には特に、知的財産、ノウハウ、業務プロセスなど組織資本と、知的資本である顧客、パートナーとの関係・ブランド力など外部との関係が最重要の競争力となるとスピーチ。

#### ◆総括挨拶：



高梨智弘日本ナレッジ・マネジメント学会副理事長から、全体のケース、講演の講評が行われた。日本での全国的展開である ITC 制度の役割についても、東洋的な発想である実践知、意識知が、実は、欧州でも業務プロセスの可視化と並んで、重視されている Mindset と共通する考えであることや、日本の「場」や「知」の概念も、多様性・成熟度に合わせて考察されるべきこと、特に、気づき（Awareness）・注視

（Attention）・実行（Action）の 3A のステップが重要であることが強調された。

#### ◆閉会の挨拶



17：10～主催者の花堂靖仁早稲田大学教授から、閉会の挨拶があった。

（写真は松本優）